



# ペインクリニック 痛み外来

## ペインクリニック (痛み外来)とは

ペインクリニックでは、痛み止めでは治らない腰や脚の痛み、長引く首・肩の痛み、失った腕や脚の先端の痛み、がんから生じる痛みなど、痛みを主な症状とするありとあらゆる病気を対象としています。そして、その一つ一つの症状に応じて、神経ブロック療法、薬物療法、理学療法、心理療法などの治療が行われています。特に神経ブロック療法は、神経などに局所麻酔を注射、もしくは加熱、冷却、加圧することにより、痛みの伝達をブロックする治療法であり、薬物療法と手術療法の中間に位置する第三の治療法として、多くの痛みの治療に用いられています。



## 痛みの種類について

さまざまな種類の痛みがあり、次のように分類して治療を行っています。

### ■侵害受容性疼痛<sup>どうつう</sup>

けがや火傷、骨折をした時などに感じる痛みです。炎症や刺激から生じる痛みで、例えばけんしょう炎や関節リウマチなどがあります。

### ■神経障害性疼痛<sup>どうつう</sup> ※特にペインクリニックが有効とされる痛みの種類

見た目には傷や炎症はありませんが、けがや病気などで神経が傷ついたことにより生じる痛みで、主に次のような病気があります。

- ① 帯状疱疹後神経痛(たいじょうほうしんごしんけいいつう)…幼初期にかかった水ぼうそうが治った後も神経に潜り、免疫力が低下したときに現れる。
- ② 糖尿病性神経障害(とうにようびょうせいしんけいしょうがい)による痛み、しびれ…糖尿病により神経が傷つき、手足にしびれや痛みが現れる。
- ③ 坐骨神経痛(ざこつしんけいいつう)…高齢者に多く、お尻から足の後ろ側にかけて痛みやしびれ、麻痺などが現れる。

### ■混合性疼痛<sup>どうつう</sup>

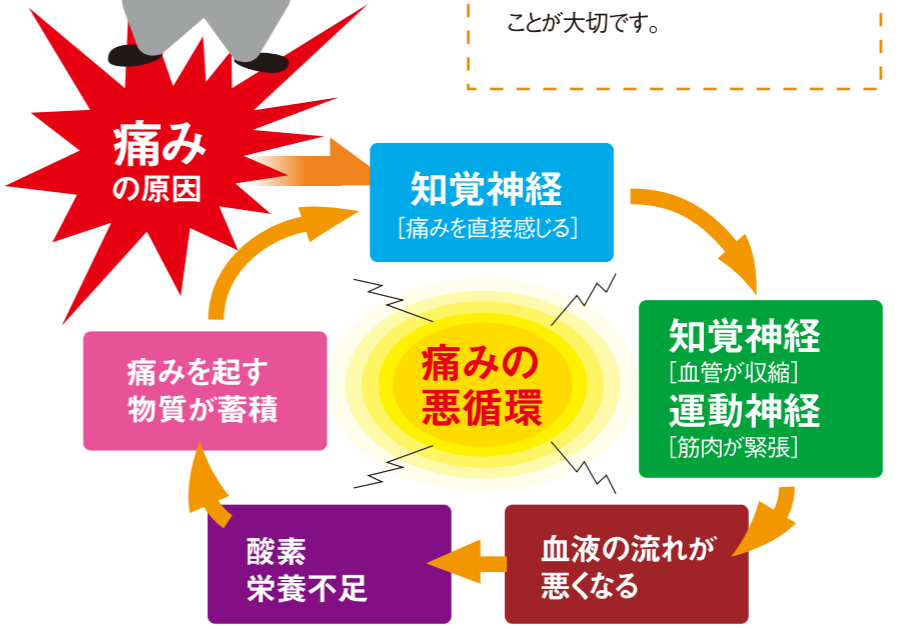
侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛の両方を併せもつ痛みで、慢性痛ともいわれています。

患者さんの痛みと向き合い、最善の治療を追求する痛みの外来  
 当院の麻酔科の業務は大きく二つに分けることができます。一つは、手術や検査時の麻酔管理。もう一つは、痛みを有する患者さんに対して、診断・治療を行うペインクリニック(痛み外来)です。今号では、当院のペインクリニックについてご紹介します。



## 痛みの悪循環

短期間で消失するはずの急性の痛みであっても、適切な治療をせずに放置しておくと、「痛みの悪循環」に陥ってしまうことがあります。元の痛みに対して、さらに新たな痛みが加わる状況を作り出す悪循環におちいると、症状は慢性化してしまいます。痛みを我慢せず、早期に適切な治療を行うことが大切です。



## — 患者の皆様へ —

当院ではあらゆる種類の痛みに対し、神経ブロックなどを中心に様々な治療方法を組み合わせ、痛みの除去や緩和を行っています。また、慢性痛に対しては、専門的な薬物療法に加えて、光線療法や理学療法を用いて緩和するとともに、カウンセリングを行い、患者さんの痛みに対する知識と理解を深めることで日常生活への復帰を支援します。患者さんの痛みと正面から向き合い、患者さんと一緒に最善の治療法を探します。どんな些細なことでもかまいません。お気軽にご相談ください。



■説明は  
 徳島大学病院 麻酔科  
**川人 伸次**(かわひとしんじ) 病棟医長  
 ■問い合わせ  
 Tel. 088-633-7179(麻酔科外来)